

第2章 人口と世帯

1 人口及び1世帯当たり人員の推移（表1、図1）

平成30年10月1日現在の総人口は1,949,440人となり、前年と比べ8,969人減少した。

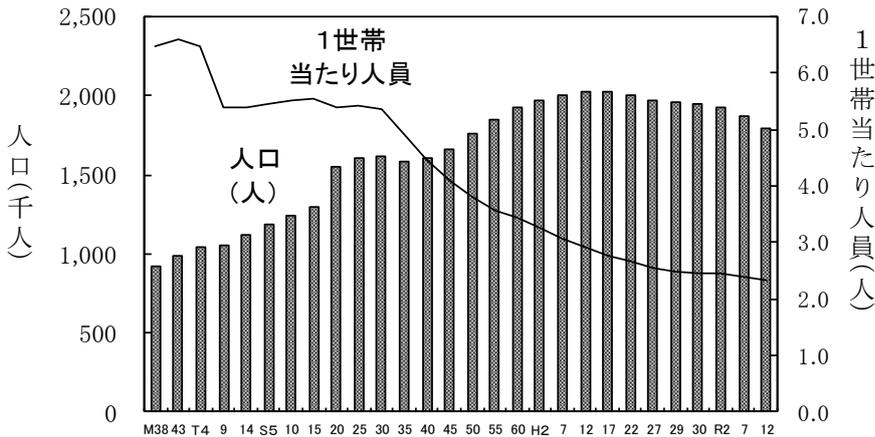
平成5年には200万人台となったが、その後減少に転じ、令和12年には1,796千人になると推計されている。

1世帯当たり人員は、核家族化の進行とともに急激に減少し、平成30年には2.44人となった。令和12年には2.34人まで減少すると推計されている。

表1 人口・1世帯当たり人員の推移

	人口(人) 各年10月1日	1世帯 当たり 人員
明治38	915,740	6.47
43	988,241	6.60
大正4	1,042,279	6.47
9	1,052,610	5.38
14	1,118,858	5.40
昭和5	1,186,080	5.46
10	1,242,453	5.52
15	1,299,027	5.54
20	1,546,081	5.39
25	1,601,380	5.43
30	1,613,549	5.35
35	1,578,476	4.91
40	1,605,584	4.46
45	1,658,909	4.09
50	1,756,480	3.82
55	1,848,562	3.58
60	1,921,259	3.45
平成2	1,966,265	3.26
7	2,003,540	3.08
12	2,024,852	2.91
17	2,024,135	2.75
22	2,008,068	2.66
27	1,973,115	2.55
29	1,958,409	2.48
30	1,949,440	2.44
令和2	1,926,000	2.47
7	1,866,000	2.40
12	1,796,000	2.34

図1 人口・1世帯当たり人員の推移



【出典】平成30年まで：移動人口調査（群馬県企画部統計課）
令和2年以降：日本の地域別将来推計人口、日本の世帯数の将来推計（国立社会保障・人口問題研究所）

2 年齢別人口割合の推移（表2、図2）

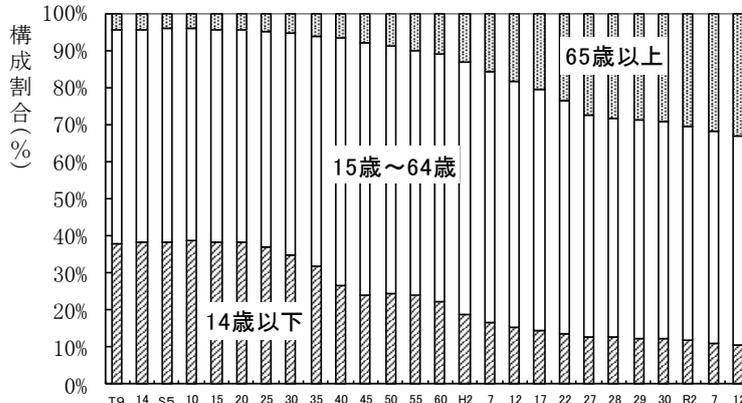
平成30年の14歳以下人口割合は12.2%、65歳以上人口割合は29.4%で、平成8年に65歳以上人口が14歳以下人口を上回って以来、その差は広がっている。

65歳以上人口割合は、3割にせまっておき、令和12年では33.1%と14歳以下人口の3倍以上になると推計されている。

表2 年齢別人口割合の推移

	群馬県		全国	
	14歳以下	65歳以上	14歳以下	65歳以上
大正9	38.1	4.6	36.5	5.3
14	38.4	4.4	36.7	5.1
昭和5	38.4	4.3	36.6	4.8
10	38.9	4.3	36.9	4.7
15	38.2	4.4	36.1	4.7
20	38.4	4.7	36.8	5.1
25	36.8	4.8	35.4	4.9
30	34.8	5.4	33.4	5.3
35	31.7	6.1	30.0	5.7
40	26.4	6.9	25.6	6.3
45	23.9	7.9	23.9	7.1
50	24.3	8.8	24.3	7.9
55	23.9	10.0	23.5	9.1
60	22.1	11.2	21.5	10.3
平成2	18.7	13.0	18.2	12.1
7	16.5	15.6	16.0	14.6
12	15.2	18.2	14.6	17.3
17	14.4	20.6	13.7	20.1
22	13.8	23.6	13.1	23.0
27	12.8	27.6	12.6	26.6
29	12.4	28.9	12.3	27.7
30	12.2	29.4	12.2	28.1
令和2	11.9	30.4	12.0	28.9
7	11.1	31.8	11.5	30.0
12	10.7	33.1	11.1	31.2

図2 年齢別人口割合の推移（群馬県）

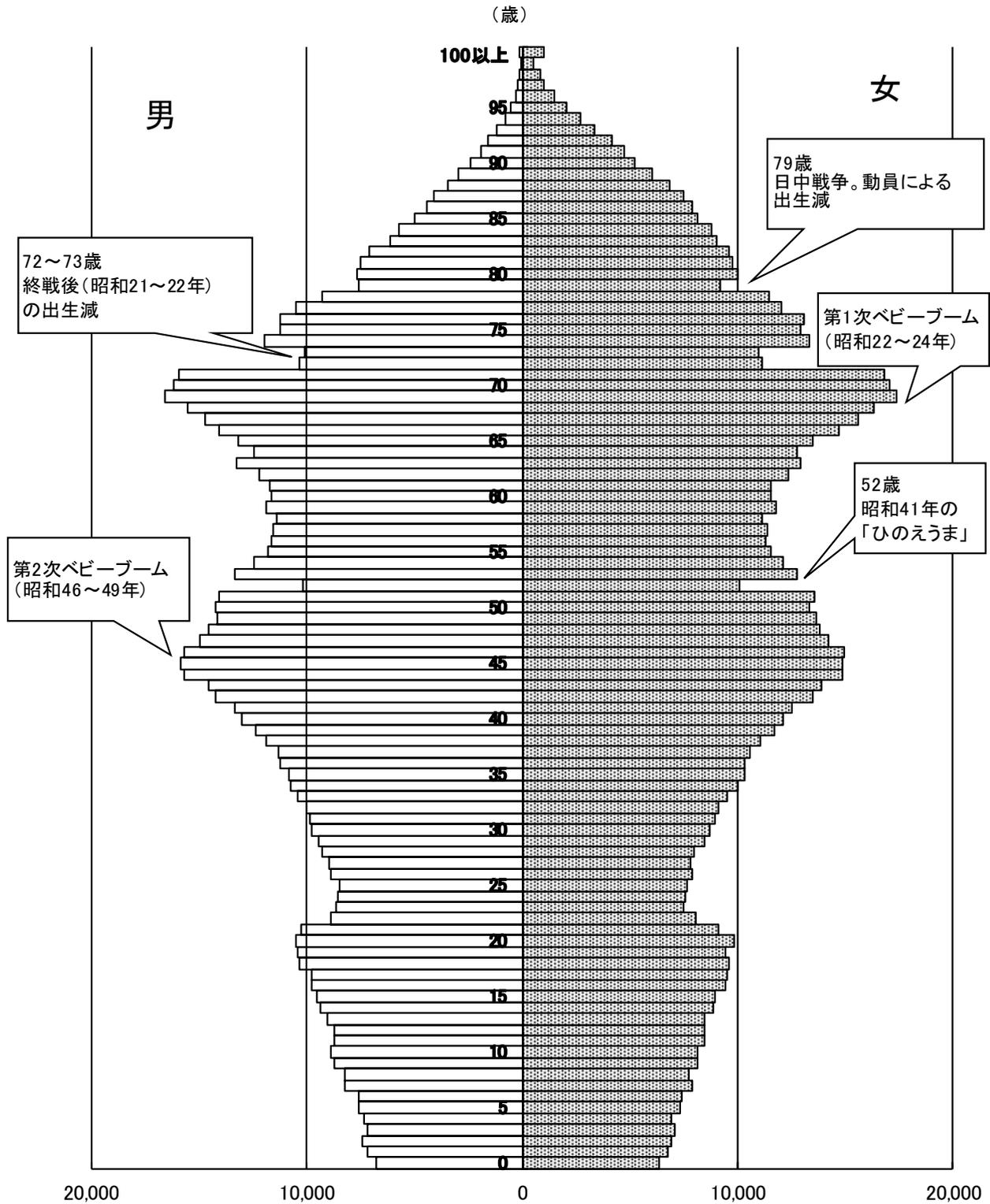


(注) 本章の年齢別人口割合(%)は、分母となる総人口に、年齢不詳の人数を除いて計算している。

【出典】平成30年まで：群馬県年齢別人口調査（群馬県企画部統計課）、人口推計（総務省）
令和2年以降：日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

3 人口ピラミッド (図3)

図3 人口ピラミッド (平成30年10月1日現在)



出典：群馬県年齢別人口統計結果（県企画部統計課）

（注）年齢不詳（総数16,425人、男9,914人、女6,511人）は含まない。